

ヤマトトウキの生産・6次産業化で農福連携し地域活性化に挑む

農業生産法人 有限会社ポニーの里ファーム 奈良県高市郡高取町

■漢方薬の原料となるヤマトトウキを生産

奈良県名産の「ヤマトトウキ」は、セロリに似た芳香が特徴的なセリ科の多年草で、根は婦人病薬等に効くとされ生薬の原料として利用される。

有限会社ポニーの里ファーム（代表取締役 明見健治 氏）は、このヤマトトウキの生産に、薬のまち・高取町で取り組む農業生産法人である。

当初、同社はネギや水稻などを生産していたが、2011年にヤマトトウキを試験栽培。その後始まった奈良県「漢方のメッカ推進プロジェクト」の流れに乗り、高取町や地域住民等からの支援を受けて生産を本格化させている。

■6次産業化で高付加価値化に取り組む

同社は2012年度に農林水産省の六次産業化・地産地消法に基づく「総合化事業計画」の認定を受け、自社でヤマトトウキの生産だけでなく加工・販売を行っている。

根は製薬問屋へ卸す他、食品原料となる葉は乾燥させ、茶葉やハーブソルト（香草を混ぜた食塩）等に加工。「やまとたかとり薬膳食房」のブランドで商品を展開し、全国の食料雑貨店や道の駅等に販売する他、イベントやインターネットでの直接販売も行う。

近年では、奈良市内のスムージー専門店とコラボして「大和トウキ葉とバナナのスムージー」を開発。その他にも、同社の提供する原材料を使用したお菓子やドレッシング、化粧水、入浴剤等の新商品が各社から販売されている。

■農福連携で多様な就労機会の拡大を目指す

同社は、障がい者の乗馬セラピーの普及を目的に2001年に設立されたNPO法人「ポニーの里をつくろう会」を母体として2006年に設立。福祉にルーツをもつ同社は、農業の担い手不足解消と多様な就労機会の拡大を目指す「農福連携」に

取り組んでいる。

系列の障がい者就労支援センターと協力し、福祉に精通した職員が作業者を支援することで、生産・加工等の多くの工程で障がい者の就労機会を拡大。自社生産の不足分を町内生産者からも仕入れており、休耕地の活用や高齢者の就労にも寄与している。

■農業観光で地域交流につなげる

同社は現在、ヤマトトウキを中心とした薬草のワークショップ等の体験イベントの開催、薬膳料理の提供等を通じた地域交流に力を入れている。

統括マネージャーを務める保科政秀氏（28歳）は、「当社は、『農村医療観光』のモニターツアー先の一つに選ばれる等、農業体験と薬草の栽培を通じた『人もまちも元気にする』取り組みが注目されている」と語る。今後はさらなる収益力向上や販路拡大を図り、経済的に持続性のある事業活動を目指したいという。（太田宜志、吉村謙一）



ヤマトトウキを使った製品群（上）、収穫されたヤマトトウキ（左下）、従業員のみなさん（右下）

農業生産法人 有限会社ポニーの里ファーム

〒635-0136

奈良県高市郡高取町兵庫 193-2

URL: <http://ponynosatofarm.shop-pro.jp/>